

## 使徒 7

“そこでステパノは言った。「兄弟たち、父たちよ。聞いてください。私たちの父アブラハムが、ハランに住む以前まだメソポタミヤにいたとき、栄光の神が彼に現れて、『あなたの土地とあなたの親族を離れ、わたしがあなたに示す地に行け』と言われました。そこで、アブラハムはカルデア人の地を出て、ハランに住みました。そして、父の死後、神は彼をそこから今あなたがたの住んでいるこの地にお移しになりましたが、ここでは、足の踏み場となるだけのものさえも、相続財産として彼にお与えになりませんでした。それでも、子どももなかった彼に対して、この地を彼とその子孫に財産として与えることを約束されたのです。また神は次のようなことを話されました。『彼の子孫は外国に移り住み、四百年間、奴隷にされ、虐待される。』”

### 使徒の働き 7章 2～6 節

“また神は、アブラハムに割礼の契約をお与えになりました。こうして、彼にイサクが生まれました。彼は八日目にイサクに割礼を施しました。それから、イサクにヤコブが生まれ、ヤコブに十二人の族長が生まれました。

族長たちはヨセフをねたんで、彼をエジプトに売り飛ばしました。しかし、神は彼とともにおられ、あらゆる患難から彼を救い出し、エジプト王パロの前で、恵みと知恵をお与えになったので、パロは彼をエジプトと王の家全体を治める大臣に任じました。

ところが、エジプトとカナンとの全地にききんが起り、大きな災難が襲って来たので、私たちの父祖たちには、食物がなくなりました。

しかし、ヤコブはエジプトに穀物があると聞いて、初めに私たちの父祖たちを遣わしました。二回目のとき、ヨセフは兄弟たちに、自分のことを打ち明け、ヨセフの家族のことがパロに明らかになりました。

そこで、ヨセフは人をやって、父ヤコブと七十五人の全親族を呼び寄せました。

ヤコブはエジプトに下り、そこで彼も私たちの父祖たちも死にました。

そしてシケムに運ばれ、かねてアブラハムがいくらかの金でシケムのハモルの子から買っておいだ墓に葬られました。

神がアブラハムにお立てになった約束の時が近づくにしたがって、民はエジプトの中にふえ広がり、ヨセフのことを知らない別の王がエジプトの王位につくときまで続きました。この王は、私たちの同胞に対して策略を巡らし、私たちの父祖たちを苦しめて、幼子を捨てさせ、生かしておけないようにしました。

このようなときに、モーセが生まれたのです。彼は神の目になつた、かわいらしい子で、三か月の間、父の家で育てられましたが、

ついに捨てられたのをパロの娘が拾い上げ、自分の子として育てたのです。

モーセはエジプト人のあらゆる学問を教え込まれ、ことばにもわざにも力がありました。四十歳になったころ、モーセはその兄弟であるイスラエル人を、顧みる心を起こしました。

そして、同胞のひとりが虐待されているのを見て、その人をかばい、エジプト人を打ち倒して、乱暴されているその人の仕返しをしました。

彼は、自分の手によって神が兄弟たちに救いを与えようとしておられることを、みな理解してくれるものと思っていましたが、彼らは理解しませんでした。

翌日彼は、兄弟たちが争っているところに現れ、和解させようとして、『あなたがたは、兄弟なのだ。それなのにどうしてお互いに傷つけ合っているのか』と言いました。”

### 使徒の働き 7章 8～26 節

“このことばを聞いたモーセは、逃げてミデアンの地に身を寄せ、そこで男の子ふたりをもうけました。四十年たったとき、御使いが、モーセに、シナイ山の荒野で柴の燃える炎の中に現れました。その光景を見たモーセは驚いて、それをよく見ようとして近寄ったとき、主の御声が聞こえました。

『わたしはあなたの父祖たちの神、アブラハム、イサク、ヤコブの神である。』そこで、モーセは震え上がり、見定める勇気もなくなりました。”

#### **使徒の働き 7章 29～32 節**

“『だれがあなたを支配者や裁判官にしたのか』と言って人々が拒んだこのモーセを、神は柴の中で彼に現れた御使いの手によって、支配者また解放者としてお遣わしになったのです。この人が、彼らを導き出し、エジプトの地で、紅海で、また四十年間荒野で、不思議なわざとするしを行いました。

このモーセが、イスラエルの人々に、『神はあなたがたのために、私のようなひとりの預言者を、あなたがたの兄弟たちの中からお立てになる』と言ったのです。”

#### **使徒の働き 7章 35～37 節**

“ところが、私たちの父祖たちは彼に従うことを好まず、かえって彼を退け、エジプトをなつかしく思って、

『私たちに、先立って行く神々を作ってください。私たちをエジプトの地から導き出したモーセは、どうなったのかわかりませんから』とアロンに言いました。

そのころ彼らは子牛を作り、この偶像に供え物をささげ、彼らの手で作った物を楽しんでいました。”

#### **使徒の働き 7章 39～41 節**

“そこで、神は彼らに背を向け、彼らが天の星に仕えるままにされました。預言者たちの書に書いてあるとおりです。『イスラエルの家よ。あなたがたは荒野にいた四十年の間に、ほふられた獣と供え物とを、わたしにささげたことがあったか。

あなたがたは、モロクの幕屋とロンパの神の星をかついでいた。それらは、あなたがたが拝むために作った偶像ではないか。それゆえ、わたしは、あなたがたをバビロンのかなたへ移す。』”

#### **使徒の働き 7章 42～43 節**

“あなたがたはあなたがたの王サクテと、あなたがたのために造った星の神、キウンの像をかついでいた。”

#### **アモス書 5章 26 節**

“しかし、わたしの名を恐れるあなたがたには、義の太陽が上り、その翼には、いやしがある。あなたがたは外に出て、牛舎の子牛のようにはね回る。”

#### **マラキ書 4章 2 節**

“まことに、神なる主は太陽です。盾です。主は恵みと栄光を授け、正しく歩く者たちに、良いものを拒まれません。

万軍の主よ。なんと幸いなことでしょう。あなたに信頼するその人は。”

#### **詩篇 84篇 11～12 節**

“そして彼らの目の前で、御姿が変わり、御顔は太陽のように輝き、御衣は光のように白くなった。”

#### **マタイの福音書 17章 2 節**

“また、右手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出ており、顔は強く照り輝く太陽のようであった。”

#### **ヨハネの黙示録 1章 16節**

“神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。”

#### **ローマ人への手紙 1章 20節**

“私たちの父祖たちは、この幕屋を次々に受け継いで、神が彼らの前から異邦人を追い払い、その領土を取らせてくださったときには、ヨシユアとともにそれを運び入れ、ついにダビデの時代となりました。

ダビデは神の前に恵みをいただき、ヤコブの神のために御住まいを得たいと願い求めました。けれども、神のために家を建てたのはソロモンでした。

しかし、いと高き方は、手で造った家にはお住みになりません。預言者が語っているとおりです。

『主は言われる。天はわたしの王座、地はわたしの足の足台である。あなたがたは、どのような家をわたしのために建てようとするのか。わたしの休む所とは、どこか。

わたしの手が、これらのものをみな、造ったのではないか。』”

#### **使徒の働き 7章 45～50節**

“かたくなで、心と耳とに割礼を受けていない人たち。あなたがたは、父祖たちと同様に、いつも聖霊に逆らっているのです。”

#### **使徒の働き 7章 51節**

“あなたの神、主は、あなたの心と、あなたの子孫の心を包む皮を切り捨てて、あなたが心を尽くし、精神を尽くし、あなたの神、主を愛し、それであなたが生きるようにされる。”

#### **申命記 30章 6節**

“外見上のユダヤ人がユダヤ人なのではなく、外見上のからだの割礼が割礼なのではありません。

かえって人目に隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、文字ではなく、御霊による、心の割礼こそ割礼です。その誉れは、人からではなく、神から来るものです。”

#### **ローマ人への手紙 2章 28～29節**

“この方について、私たちは話すべきことをたくさん持っていますが、あなたがたの耳が鈍くなっているため、説き明かすことが困難です。”

#### **ヘブル人への手紙 5章 11節**

“人々はこれを聞いて、はらわたが煮え返る思いで、ステパノに向かって歯ぎしりした。

#### **使徒の働き 7章 54節**

“さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。

わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」

これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである。”

### **ヨハネの福音書 7章 37～39 節**

“私にはことばがあふれており、一つの霊が私を圧迫している。私の腹を。

今、私の腹は抜け口の無いぶどう酒のようだ。新しいぶどう酒の皮袋のように、今にも張り裂けようとしている。

私は語って、気分を晴らしたい。くちびるを開いて答えたい。”

### **ヨブ記 32章 18～20 節**

“泉が甘い水と苦い水を同じ穴からわき上がらせるというようなことがあるでしょうか。

### **ヤコブの手紙 3章 11 節**

“しかし、聖霊に満たされていたステパノは、天を見つめ、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスとを見て、

こう言った。「見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます。」人々は大声で叫びながら、耳をおおい、いっせいにステパノに殺到した。

そして彼を町の外に追い出して、石で打ち殺した。証人たちは、自分たちの着物をサウロという青年の足もとに置いた。

こうして彼らがステパノに石を投げつけていると、ステパノは主を呼んで、こう言った。「主イエスよ。私の霊をお受けください。」

そして、ひざまずいて、大声でこう叫んだ。「主よ。この罪を彼らに負わせないでください。」こう言って、眠りについた。”

### **使徒の働き 7章 55～60 節**